

## 風疹・麻疹ワクチン（MR）について

### <麻疹>

2017年夏、アジアからの輸入感染事例が多く報告されました。

症状は口腔内粘膜のただれ（コプリック斑）、高熱、発疹を特徴とします。

通常7－10日間で自然治癒しますが、脳炎や肺炎を合併すると重症化することもあります。

感染経路は**空気感染**ですので、防御法として手洗いやマスクでは不十分で**ワクチン接種**が必要となります。

### <風疹>

2018年、関東を中心に感染の拡大が報告されています。

（10月末までで前年の**21倍**の感染者数です）

感染経路は**飛沫感染**です。

症状は、発熱、発疹、耳後部などのリンパ節腫脹、結膜の充血を特徴とします。

基本的には予後良好の疾患で、通常は1週間程度で自然に治る病気です。

風疹にまつわる最大の問題は妊娠**20週**までに妊婦に感染した場合におこる

**先天性風疹症候群**です。母体が風疹に罹患すると胎児に心疾患、難聴、白内障、網膜症などさまざまな障害が発症する危険が生じるわけです。

### <風疹・麻疹ワクチン（MR）>

現在、風疹ないし麻疹の感染予防で使えるワクチンです。

日本では1970年台から2000年台にかけて度々ワクチン政策が変更されたために、風疹ワクチンに関しては女性で**28歳7か月**（2018年11月現在）以上の男子、女子ともに1回または1回も接種なしが現状です\*。

そのために**30－50代**の風疹の抗体価が低下しており、感染の拡大が生じているようです。

2018年秋までに先天性風疹症候群の報告はありませんが、**2013年**には全国で成人男性を中心に風疹が流行し、この年**45人**の先天性風疹症候群の報告がありました。

先天性風疹症候群予防のために、**28歳**（2018年11月現在）以上の方、特に妊娠を希望されるご家族がおられる場合、**MRワクチン**の接種を受けることをお勧めします。

### <ワクチン接種上の注意事項>

#### 1) **妊娠中MRワクチンは接種できません。**

MRワクチン接種後、**2か月間避妊**する必要があります。

#### 2) MRワクチンは**生ワクチン**なので、注射後**27日**以上たたなければ次のワクチン（インフルエンザワクチン、肺炎球菌ワクチン、BCG、水痘ワクチンなど）を受けることがで

きません。

3) インフルエンザワクチン、肺炎球菌ワクチンなどの**不活化ワクチン**接種後は**6日**以上たてば**MR**ワクチンを接種することはできます。

4) 1か月以内に**2つ**のワクチンを注射される場合には、前のワクチンが**不活化ワクチン**か**生ワクチン**かを医療機関で確認してください。

5) 現在、**MR**ワクチンは

第1期：生後12か月—24ヶ月

第2期：5歳以上7歳未満

の定期接種となっています。

ワクチンは1回接種で95%、2回接種で99%免疫が獲得されると考えられています。

#### <年代別でみる風疹の予防接種制度の変遷>

男性	1回	2回	幼児期に	中学生の時に	1回も接種していない	
女性	個別接種	個別接種	個別接種(1回)	個別接種(1回)	中学生の時に集団接種(1回)	1回も接種していない

↑

年齢 1歳      6歳      28歳7か月 (1990/04/02生)      31歳1か月 (1987/10/02生)      39歳7か月 (1979/04/02生)      56歳7か月 (1962/04/02生)

\*年齢は2018年11月1日時点